

■「指導内容（時間単位）」

地理的分野 事例2：北海道の地域特性との比較を通じた北方領土の再発見

1. 指導内容と評価規準

①指導内容
<p>○現在の北方四島の状況</p> <p>○北方四島の自然、現在の北方四島における暮らし</p> <p>※本指導内容は、特定地域の地誌を深く取り扱っており、中学校社会科の地理的分野としては、発展的内容が多く含まれています。</p>

②評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<p>北方領土問題について、自分の国が抱える問題、自分にとっても身近な問題として関心を持つことができる。</p>	<p>北方領土問題を含め、日本のさまざまな地域の事象、他国との関係について自分事として主体的に考えることができる（北方領土問題を事例として扱う本項目では、同問題の解決に向けた方策を主体的に考えることができること）。</p>	/	<p>外交上の問題、歴史的な問題として認識されがちな北方領土が、自然環境などの面では、対岸の北海道東部と似た特性を有していることを理解している。</p>

2. 時間単位の学習の流れと内容について

学習の流れ	学習内容	指導上の留意点	学習資料	ワークシート
<p>北方領土の戦後の状況と交流について (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 終戦後のソ連軍の侵攻、その後の法的根拠のない占拠の事実 	<ul style="list-style-type: none"> 北方四島には日本人が一人も住んでいない現状、返還に向けた取り組みが続けられてきた事実を、理解させることが重要である。 	(1)	
<p>北方領土の自然、風景について (15分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 北方四島の地形 北方四島の気候、動植物 	<ul style="list-style-type: none"> 地形、気候等の面で北方四島は、対岸の北海道東部と似ていることを理解させ、遠い地域の外交上の問題ではなく、北海道の近接地域の問題として、四島の存在を再発見させることが重要である。 併せて、世界自然遺産に指定された対岸の北海道・知床地域などの自然環境や、観光産業（教科書参照）について説明し、同様に豊かな自然環境が残る島として、北方四島を紹介すると効果的である。 	(2) (3) (4)	(1)：思考・判断・表現に関する課題

<p>現在の北方領土の産業、暮らしについて (15分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業や水産加工業を主とする現在の北方四島の産業 ・現在、北方四島に居住するロシア人の暮らしぶり 	<ul style="list-style-type: none"> ・北方四島に暮らすロシア人は、社会インフラが必ずしも十分整備されていない中、対岸の北海道東部の住民と同様、漁業や水産加工業に従事していることを理解させる。 ・政治的な外交面をめぐる対立構造だけでなく、医療に関する日本政府の支援などの実態についても併せて説明し、多様な観点から、北方領土問題を理解させる糸口を与えると良い。 	<p>(5) (6)</p>	<p>(2): 思考・判断・表現に関する課題</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北方四島、北方領土問題に対する新たな気づきの確認 ・医療面における支援などが行われている理由の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・縁遠い問題として認識されがちな北方領土について、自然環境や産業等の観点から、自分たちの暮らす地域との類似点／相違点を考えさせることにより、関心を持たせることが重要である〔ワークシートの(1)に対応〕。 ・現在、北方四島に暮らすロシア人に対して、日本政府はさまざまな支援を行っていること、その背景を全体で共有させると良い〔ワークシートの(2)に対応〕。 		